

シリーズ — 召命 —

どうして神父さまに !!

アントニオ・カマチョ神父



今回はグアダルペ宣教会司祭アントニオ・カマチョ神父にお話を伺いました。カマチョ神父は、京丹ブロック・教区広報委員会担当司祭として司牧され、京都教区時報編集委員でもあります。



○は編集子
●はカマチョ神父

○ カトリックとの出会いをお聞かせください。

● 私は幼児洗礼で、生まれて7日後に洗礼を受け、家庭で信仰生活を学び、カトリックの幼稚園と小学校に通っていましたが、普通の子どもだったと思います。

○ 子どものころの話をお聞かせください。

● 元気な子どもでした。学校では、サッカーをしていました。土曜学校では、イエス様の話を聞きました。それぞれの学校の友達と、よく遊びまし

た。日曜日は子どものミサに侍者で参加しました。

○ ご家族・家庭環境などをお聞かせください。

● 皆カトリックで、父は毎日ミサへ行き、夜はロザリオなど、いろいろな祈りをしていました。家族は父と母（帰天）、弟が1人、今は結婚して子どもが3人います。父と母は教会でいろいろな活動をしていました。結婚講座とかマリッジエンカウンターなどの指導をしていました。教会の役員でもありました。

○ 神父様になろうと思われたきっかけをお聞かせください。

● ミサで侍者をしていたときには、神父になろうとは思っていませんでした。ある日、母がマリッジエンカウンターを指導していたときに、神父が来られず、ミサがなかった事がありました。やっぱりミサが一番大切ですから、神父がいないと困ると思いました。そのとき母に言いました。『私は神父になります。そして、私がミサをします』。○ どうして神父様になられたかをお聞かせください。
● どうしてと言ったらやっぱり、神様

がお呼びになり、私は応えました。神祕なことです。いただいた信仰と恵みを私だけではなく、皆様の為に、司祭としてミサを捧げ、秘跡を与え、交わり、一緒に神の国に向かって喜びを分かち合うためです。



ダヴィデ師とカマチョ師 司祭叙階
メキシコグアダルペ宣教会 大神学院

○ 神学生になられてからの話をお聞かせください。

● 最初は難しかったです。神学院に入って共同生活しながら、祈りや黙想、勉強、さらに院外の使徒職活動によって自己の召命を深めます。そこは

教区司祭ではなく宣教師になる宣教会の神学院でした。メキシコに残るのではなく、外国で宣教活動するためです。メキシコで5年間、日本で4年間、神学生活をしました。

○ 司祭になるまでの話をお聞かせください。

● 長かったです。養成期間15年で司祭になりました。けれどもいろいろな勉強、経験、体験を授けていただき、神様に感謝しています。現代において、聖職者であるということは、教会共同体や、また信者でない方も満たすために、十分に準備されていなければなりません。社会の福音化に取り組むためによく勉強し、よく祈ることが必要です。

○ 司祭叙階されてから、何年ですか。

● 19年6ヶ月が経ちました。

○ 司祭になってからどうでしたか。

● イエス様のみ旨に従って行うように「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」と日本まで来ました。

○ 司祭になられてから、楽しかったことや喜びをお聞かせください。

● 楽しかったことはいっぱいです、特

に信者さんと一緒に教会活動をするということです。喜びは毎日ミサを捧げることです。一番心に残っているのは、教皇ベネディクト十六世によるメキシコ訪問でのメディアアコーディネーターをさせていただいたことです。それと、教皇聖ヨハネ・パウロ二世と教皇フランシスコに、お会いできたことです。カトリック信者に生まれてよかったです。



両親と弟(金閣寺)

○ 今の気持ちをお聞かせください。

● やっぱり日本に帰って来て、京都教区で司祭司牧させていただき、神に感

謝しています。

私はあなたと共に歩み、共に喜び、共に泣き、共に成長し、共に祈り、共に宣教する司祭になりたいと思います。



ラ・ムニエカ山でミサ
(メキシコシティから約200km離れた山)